

進化を続ける、世界のアンチ・ドーピング  
Evolving, PLAY TRUE JAPAN.

## スポーツの未来への投資

クリーンなスポーツ、クリーンなアスリートのために

For the future of our sport - sport integrity

FOR THE  
REAL CHAMPION

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

〒115-0056 東京都北区西が丘3丁目15番1号 国立スポーツ科学センター内  
TEL.03 (5963) 8030 FAX.03 (5963) 8031  
c/o Japan Institute of Sports Sciences,3-15-1 Nishigaoka,Kita-ku,Tokyo 115-0056 JAPAN  
TEL.+81-3-5963-8030 FAX.+81-3-5963-8031

URL <http://www.playtruejapan.org/>



スポーツ振興くじ助成事業



# CONTENTS

## 01

### スポーツの価値を高める未来への序章 第4回アンチ・ドーピング世界会議

- 02 IOC会長オープニングスピーチ
- 04 ヨハネスブルク宣言
- 06 会議プログラム
- 07 WADA会長基調スピーチ
- 08 世界会議参加者による主要な発言ポイント
- 10 世界会議内容、WADA理事会決定事項

## 11

### 2015 WORLD ANTI-DOPING CODE & International Standards 2015世界アンチ・ドーピング規程改定の意義とポイント

- 12 アンチ・ドーピング・規程改定プロセスの意義
- 13 アンチ・ドーピング・規程改定プロセスの概要
- 14 2015 Code と ISs の基調となるテーマ

## 17

### アンチ・ドーピング世界会議の変遷

- 18 アンチ・ドーピング世界会議と国内の動き
- 20 第1回・2回・3回アンチ・ドーピング国際会議 採択決議文要約
- 21 第4回 国際会議 概要
- 22 アンチ・ドーピング国際会議の変遷と展望

## 23

### 真のスポーツ 真の強さを求めて アンチ・ドーピングを通して未来を見据える Play True Sport

- 24 アンチ・ドーピング世界地図
- 26 アンチ・ドーピング活動の発展  
2020年を目指して PLAY TRUE – for our future sport

## スポーツの価値を高める未来への序章 第4回アンチ・ドーピング世界会議

### Johannesburg Declaration 2013



## IOC会長オープニングスピーチ

# アンチ・ドーピング活動の成功にこそ、 スポーツの未来が保証される



## An investment in the future of our sport

「アンチ・ドーピングとは、我われのスポーツの未来への投資である。  
スポーツの未来は、アンチ・ドーピング活動の成功に掛かっている。」

“They are an investment in the future of our sport.  
The future of sport greatly depends on our success in the fight against doping,  
any kind of manipulation and related corruption, because all these measures  
serve to protect the clean athletes.”

「アンチ・ドーピングとは、安全保障のようなものである。  
そこには、予防と抑止の両方が欠かせない。」

## Because the fight against doping is like security measures

We should not then argue that one positive test costs several hundred thousand dollars. That would be like saying that a terrorist attack at an airport costs us so many millions of dollars. Because the fight against doping is like security measures. It is also about deterrence and prevention.

トーマス・バッハ IOC会長  
Thomas Bach, IOC President

## ヨハネスブルク宣言

スポーツの精神とまったく相容れず、アスリートの健康を損なう、  
スポーツにおけるドーピングの問題が継続的な脅威であることに憂慮し、

Concerned by the persistent threat that doping in sport represents, in total  
contradiction with the spirit of sport and to the detriment of the health of athletes;

全てのクリーンなアスリートを護り、スポーツや競技大会のインテグリティを保ち、  
そしてスポーツが公平な条件の下で行われるための必要性を強調し、

Emphasising the need to protect all clean athletes, to preserve the integrity of sport  
competitions and to ensure a level playing field;

スポーツにおけるドーピングに対して組織犯罪の関与が増加していることを警戒し、

Alarmed by the increased involvement of organized crime in doping in sport;

オリンピック・ムーブメントやスポーツ・ムーブメントと、  
国内アンチ・ドーピング機関を含む政府関係諸機関との情報共有が、  
アンチ・ドーピング活動を効率的に推進するにあたり絶対的に必要であることを主張し、

Insisting that the sharing of information between the Olympic and Sports Movement  
and Governments, including National Anti-Doping Organizations, is absolutely  
necessary to increase the efficiency of the fight against doping in sport;

(選択抜粋)

以下を宣言する



## 宣言 DECLARATION

世界アンチ・ドーピング会議・ヨハネスブルク大会は、  
スポーツにおけるドーピングに対する戦いの最終的な目的が  
すべてのクリーンなアスリートを護ることにあり、  
そして、全ての関係当事者が、必要となるあらゆるリソースを投入し、  
この戦いを強化することで目的を果たすことに対する決意を  
表明すべきであることを、再確認する。

The Johannesburg World Conference on Doping in Sport  
reaffirms that the ultimate objective of the fight against  
doping in sport is the protection of all clean athletes and  
that all concerned parties should commit all required  
resources and resolve to achieve that objective by  
intensifying the fight.

ヨハネスブルク宣言—第4回アンチ・ドーピング世界会議  
Johannesburg Declaration  
2013.11.15

## 会議プログラム

2013年スポーツにおけるドーピングに関する世界会議  
2013年11月12日～15日、南アフリカ・ヨハネスブルク プログラム概要

WORLD CONFERENCE ON DOPING IN SPORT 2013  
12-15 November 2013 in Johannesburg, South Africa PROGRAM OVERVIEW

### WADA常任理事会

### 世界アンチ・ドーピング規程 コンサルテーションプロセス概観

### 世界アンチ・ドーピング規程に対するインターベンション

- スポーツ・ムーブメント
- 政府等公的機関

### 国際基準

- 検査および調査 (ISTI)
- 分析機関 (ISL)
- プライバシーおよび個人情報保護 (ISPPPI)
- 治療目的使用に係る除外措置 (ISTUE)

### WADA理事会

### 会議の結論および決議文の承認



## WADA会長基調スピーチ

# スポーツが真実で、 スポーツがフェアであるため、 より団結したアンチ・ドーピング・ コミュニティへ

WADAが設立された世界大会から、14年が経過した。初回大会以降、今回は最も重大な大会である。それは、ドーピング問題に対して魔法の杖が存在しないことが明白になったからだ。私たちはアンチ・ドーピング・コミュニティとして、スポーツや社会において、近道をして成功を収めるということがなくなるように、先行して不正の芽をとり除くべく、連携をより強くし、新たな決意を持ち、成し遂げていかなければならないことが多くある。



As you will all be aware, this Conference marks an important stage in the fight against doping in sport. It is the Fourth World Conference since WADA was formed 14 years ago, but is arguably our most important.

All of us have come to learn that doping is a problem that will not disappear overnight – there is no magic wand. Where there is a shortcut to success, some athletes will look to take it.

That is why we, WADA, and you, the anti-doping community are here – to achieve more, and to stay ahead of the cheats so that those that matter most, the vast majority of athletes, who are clean, are supported and not cheated out of success. All of us want sport to be a fair contest and absent of cheats. To achieve this it takes determination, resolve and a great deal of collaboration between us all.

I hope that later this week, when we release what will become known as the Johannesburg Declaration, it will become clear that we are a united movement. United in our desire to ensure sport is true and sport is fair.

ジョン・フェイ WADA会長  
The Hon. John Fahey, AC, WADA President

## 世界会議参加者による主要な発言ポイント

### スポーツ・ムーブメント

◆ ジョン・コーツ / John Coates, IOC副会長

“Intelligence & Investigations (インテリジェンスと調査)”の文言が入ったことに大賛成をするとともに、各国政府が具体的に実行することを強く要請する。

◆ ディック・パウンド / Richard W. Pound, IOC委員・WADA初代会長・WADA理事

簡単な質問をしてみたい—ドーピングについて「何を確実に知り得ているのか。」

1998年の時のようなスキャンダルが必要なのだろうか？

ここヨハネスブルクで新しいページをめくりたい。より効果的なアンチ・ドーピング・プログラムのため、

新たなコミットメントと共に、この絶好の機会を活かすべきである。

◆ アビー・ホフマン / Abby Hoffman, IAAFカウンシル・メンバー

より厳格な制裁に賛成である。2015 Codeにおいて4年間制裁を標準とすることを強調し、4年間制裁が実行されない場合は、CASに上訴することも考慮に入れるべきだ。

### 政府関係機関・各国アンチ・ドーピング機関

◆ オランダ政府代表

アームストロングのケースを受け、オランダでのサイクリングに関するケースが続いたことで、2015 Codeに向けて3つの提案をする。

(1) 全てのスポーツにおいて、カルチュラル・チェンジが必要

(2) そのためには、スポーツがオープンで安全であることが基盤となる

(3) 聴聞会パネルとアンチ・ドーピング機関は独立性を担保し、スポーツのガバナンス問題を広く解決するべき

◆ トラビス・タイガート / Travis Tygart, CEO USADA (アメリカ)

正しいことを行うには、困難に直面することが多い。

スポーツにおける平等を勝ち取るには、単に言葉遊びなものだけではない。

Codeは、平等を勝ち取るための "Gold standard (最上の標準)"である。

今、ここで言葉だけで終わらせるのではなく、それが施行され実行に移されることで初めて意義のあるものになる。

世界の全てのクリーンなアスリートに平等が実現されるために。

◆ イギリス政府代表

"Intelligence and investigations (インテリジェンスと調査)"を推進することが今後の課題であることは、London 2012の経験からも強調されるべきことである。

◆ アンディー・パーキンソン / Andy Parkinson, CEO UKAD (イギリス)

パートナーシップがカギ。大志を抱くことと、実際に実行に動かすことは、全く別の理念である。

今、ここにいるすべての人が団結し、それぞれの責任を果たし、WADAが適切にその責務をはたすことができるようにすることが、現在そして未来のチャンピオンを生み出すことになる。

◆ ポール・メリア / Paul Melia, CCES President (カナダ)

WADAが誕生した背景には、スポーツで世界に一つのルールを持つことへの要求があった。

世界で標準化されたルールを、一貫性を保ち適用することの重要性を再確認したい。



### アスリート代表

◆ クラウディア・ボーケル / Claudia Bokal, IOCアスリート委員長・WADAアスリート委員

クリーンなアスリートは、より厳格な制裁を望み、また居場所情報を提出することは最大の防御であり、ADAMSの有効性が高いことについて認識をしていることを、「クリーン・アスリートの代表の声」として、強調したい。

◆ ベッキー・スコット / Beckie Scott, WADAアスリート委員長・IOCアスリート委員

私の直接の経験は、「正義が勝つ」ことが証明された1つの話に過ぎないかもしれないが、この経験がクリーンなアスリートが受け止めるメッセージになることを望んでいる。2015 Codeは、スポーツの完全性・インテグリティが保たれ、スポーツが敬意を持たれることを実現するための、新たな一歩。

これが、クリーンなアスリートが求めるメッセージ。

### 文部科学副大臣スピーチ

## アンチ・ドーピングを通じた教育の推進

日本では、政府とJADAが協力したアンチ・ドーピング教育を通して、スポーツの価値や倫理観を若い世代に伝えるためのさまざまな努力を遂行。アスリート、コーチ、そしてサポートスタッフ等を対象にした教育プログラムにより、多くの若いアスリートたちへのアンチ・ドーピング活動の普及を実践してきている。また、アジア地域でのアンチ・ドーピング活動の普及・発展についても積極的に取り組んでいる。今後Tokyo 2020に向けスポーツを通じた国際貢献プロジェクトとして、アンチ・ドーピングも一つの柱とした“Sport for Tomorrow”を推進していく。

In Japan, the government and the Japan Anti-Doping Agency are collaborating to undertake various efforts for anti-doping education. Education programs to athletes, coaches and supporting personnel and in particular, we have reached an increasing number of young athletes through Outreach activity or other information sharing programs. Training the Doping Control Officers has been continuously carried out for quite some time.

Japan also takes initiatives its Sports Pharmacist System. It provides the nationally certified pharmacists with the latest information and knowledge about anti-doping regulations during the required seminar.

櫻田義孝・文部科学副大臣 / WADA常任理事

Yoshitaka SAKURADA, Minister in charge of Sports / Executive Committee member, WADA

### JADA鈴木秀典会長 スピーチ

## スポーツを通じたパルス

世界のアンチ・ドーピング・ムーブメントが変革の時を迎え、スポーツ・インテグリティの問題に直面する昨今、JADAは日本国政府とともに、スポーツにおける正義と公平性を護るためのより強いコミットメントを示したい。

嘉納治五郎先生の「自他共栄」の精神に基づき、アンチ・ドーピング・プログラムの発展を協同して進めていきたい。未来のスポーツが、若い世代にも魅力的であるように、そしてスポーツを通して「鼓動・パルス」を感じられるように。

Considering the global anti-doping movement, led by the World Anti-Doping Agency, is at the corner and faces a wider sporting integrity issue, JADA would like to reaffirm our commitment in achieving justice and fairness in sport along with the Japanese Government.

We believe in the philosophy of the Japanese founding father of modern sport, Prof. Jigoro KANO, who praised for “Jita-Kyoei”, meaning, mutual prosperity for oneself and others – this thinking can be applied to the next phase of anti-doping programme when we aim for our ultimate aim.

For the future generation, we hope that sport can be relevant to them from the perspective of anti-doping. We also hope that, in the lead up to the 2020 Games, we can share our passion to sport more than we do now and, more importantly, we share the ‘pulse’ through sport.

Japan Anti-Doping Agency

## 世界会議内容、WADA理事会決定事項

# WADA会長、副会長選出をはじめ 重要事項を議決・確認

2014年1月1日より、第3代会長・副会長選出(3年任期)

- Sir Craig Reddie会長(イギリス・スコットランド)  
— オリンピック・ムーブメントからの選出、IOC副会長
- Rev. Dr. Makhenkesi A. Stofile副会長(南アフリカ)  
— 政府からの選出、元常任理事・理事会メンバー

アジア大陸代表・常任理事に、日本国政府選出  
理事に、韓国政府の選出決定(2014~2016年の任期)

WADA予算、1%増加  
旅費を各代表常任理事、理事国が負うことを合意、  
\$500,000以上の支出削減へ

Athlete Biological Passport  
ADAMSにステロイド・モジュール機能付与・拡張  
自動的にアスリートのプロファイリングが可能

Paperless Project  
ドーピング・コントロール・フォームをデジタルへ  
ADAMSへの互換性を探る

“University Module” Kit 新規開発  
大学での教育活動推進を目指す  
2015年ユニバシアード(広州/Gwangju)より活用予定



## 2015 WORLD ANTI-DOPING CODE & International Standards

# 2015世界アンチ・ドーピング規程 改定の意義とポイント



## アンチ・ドーピング・規程改定プロセスの意義

# WORLD'S Anti-Doping Code: 世界の規程 共同、協調、包括的がキーワード

過去2年にわたる世界アンチ・ドーピング規程 (Code) の改定コンサルテーション・プロセスを通して、最も包括的で公正かつ明確な答えを見出すことが求められてきた。

現在、世界中のアスリート、スポーツ関係者および政府をはじめとする諸公的機関が、スポーツの統一した唯一の指針として、このCodeを位置づけている。また、アンチ・ドーピング機関 (ADO) は、協調してCodeを基盤としたクリーンなスポーツの発展を目指し、資源を最大限に活用しようとしている。

「Code改定のための共同プロセスでは、改訂版Codeが世界の全ての人のものとして見なされることを、明確に意図した。」—WADA

Over the course of the last two years WADA has overseen a three-stage Code Review process aimed at advancing anti-doping efforts and improving the third edition of the Code. The result? The most comprehensive, fair and clear answer to tackling doping yet.

Today, athletes, sport organizations and public authorities around the world count on this single document to provide consistent directions on anti-doping in sport across all sports and all countries.

Additionally, for Anti-Doping Organizations (ADOs), the Code helps to coordinate efforts and maximize resources dedicated to promoting clean sport –often ensuring a little goes a long way.

“The collective approach adopted throughout the Code Review Process ensures that the resulting Code will be viewed as belonging to everyone as the world’s anti-doping code.”



## アンチ・ドーピング・規程改定プロセスの概要

# 18カ月に渡る世界中でのコンサルテーション 提出された約4,000件の変更案について徹底的に検討





## 2015 Code と ISSs の基調となるテーマ

# Codeをより明瞭で 公正かつ厳格なものに

## 01 制裁の厳格化と柔軟性 Sanctions

故意で意図的なドーピングに対して、より厳格な資格停止期間を適用、一方で、故意でない不注意によるドーピングに対しては、より柔軟な対応を可能とすることについて、アスリートを中心としたステークホルダーが支持。

Stakeholders, athletes in particular, support an increase to the period of Ineligibility for intentional cheats, and more flexibility for inadvertent, unintentional doping.

## 02 比例制の原則及び人権への配慮 Human Rights, Proportionality

比例制の原則及び人権への配慮が規程内で強調され、アンチ・ドーピング規則違反に関する一般開示、および関連する手続きの修正。

Stakeholders requested consideration of the principles of proportionality and human rights be expressly stated in the Code, with modifications made to mandatory public disclosure and proceedings.

## 03 インテリジェンス、調査の役割強化 Intelligence, Investigations

政府および全アンチ・ドーピング関係者が協力することの重要性をふまえ、アンチ・ドーピング活動を推進するためのインテリジェンス収集や活用、調査の機能強化を合意。時効期限が10年間に延長、複数回の違反も過去10年以内の違反について問われる。

There was general agreement among stakeholders that the role of investigations in the fight against doping should be strengthened in the Code, as should the importance of cooperation of governments and all stakeholders in anti-doping rule violations.

## 04 アスリート・サポートスタッフの役割と責務 Athlete Support Personnel

アスリートのサポートスタッフや関係者が、近年、ドーピングへの関与について問題視されたことを踏まえ、より厳格で、具体的な役割、責務と説明責任を課す。

Stakeholders recognized the need to address the problem of Athlete Support Personnel involved in doping. 2015 World Anti-Doping Code revisions assign accountability to these personnel through specific roles and responsibilities, and provide anti-doping authorities with new rules.

## 05 リスクに基づくより効果的な検査、分析 Testing and Sample Analysis

効果的な検査および検体分析を求め、またWADAより公表されるテクニカルドキュメントに基づき、検査立案が一貫して行われることを求める。

2015 Code amendments address the need for consistent, smart testing and sample analysis across all ADOs.

## 06 IF x NADOの間のバランスと協調

Balancing Interests of IFs and NADOs

ドーピングに対する様々な対策において、国際競技連盟 (IF) と国内アンチ・ドーピング機関 (NADO) の不可欠な役割と責務をより明確にし、バランスを保つことの重要性を確認。

The Code changes proposed recognize the critical role of IFs and NADOs in the fight against doping, and the need to better clarify and balance their responsibilities

## 07 より明確で、かつ簡潔な規程へ

Clearer, Shorter Code

ステークホルダーは、本規程がより明確になり、想定される様々な状況に対して抜け道を無くし、整合性のある適用が確実に行われることを希望。またその一方で、より簡潔で、あまりテクニカルな用語が用いられず、理解されやすい文書を求める。2015年規程では、これらのバランスを保つことに尽力。

Stakeholders want the Code to be clear and to address the many different situations that can arise, so that there are no loopholes and to ensure that the application is harmonious. They also want, however, a shorter, less technical document. The challenge has been considering how to balance these competing concerns.

## アンチ・ドーピング世界会議の変遷

### World Conference on Doping in Sport



## アンチ・ドーピング世界会議と国内の動き

# MILESTONES

JADA's DEVELOPMENT CORRESPONDED with the GLOBAL ANTI-DOPING DEVELOPMENT.

**1999**  
スポーツにおけるドーピングの防止に関する世界会議 (第1回World Conference on Doping in Sport) 日本参画  
1999.11.10 **WADA設立**  
—スポーツ・ムーブメントと政府の総意、日本国常任理事に  
1992 バルセロナ  
1988 ソウル

**2001**  
**JADA設立**  
日本のアンチ・ドーピング体制が整備

**2002**  
WADAモントリオール・オフィス開設  
2002 ソルトレークシティー Independent Observerとして参加

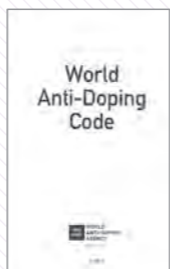
**2003**  
世界アンチ・ドーピング規程 (World Anti-Doping Code) 採択  
第2回World Conference on Doping in Sportにて世界で統一の規程の下、調和された体制が整備  
「スポーツにおけるアンチ・ドーピングに関するコペンハーゲン宣言」  
—ドラフティング・グループメンバーとして参画

**2004**  
「金メダルよりも重要なものがある」  
—室伏広治選手(ハンマー投げ)がアテネ・オリンピックにて金メダルに繰り上げ。WADAへの敬意も表すと共に、真のアスリートを象徴する言葉を残す。  
“*真実の母 オリンピアよ あなたの子供達が競技で勝利を勝ち得た時 永遠の栄誉(黄金)をあたえよ それを証明できるのは 真実の母—オリンピア 古代詩人ピンダロス 29.8.2004 室伏広治*”  
2004 アテネ WADAアウトリーチ・チーム& Independent Observerとして参加  
—Codeが初適用

**2006** トリノ



2002 WADAモントリオール・オフィス開設




2004 アテネ WADAアウトリーチ・チーム& Independent Observerとして参加  
—Codeが初適用



**2006**  
日本国政府ユネスコ国際規約締結



**2009**  
ISO認証取得  
「公認スポーツファーマシスト認定制度」開始  
JADAが日本薬剤師会と共同し世界に先駆けて創設



**2020 TOKYO**  
CONTINUED

**2006** トリノ  
2008 北京 WADAアウトリーチ・チーム一閉幕後、CERA追加検査実施

**2007**  
「スポーツにおけるドーピングの防止に関するガイドライン」策定  
**マドリード会議**  
—決議ドラフティング・グループメンバーとして参画  
第3回World Conference on Doping in Sportにて  
世界陸上2007大阪 —日本で初の血液検査


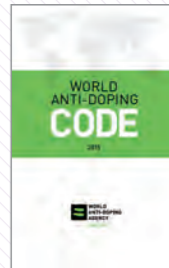
**2010**  
ドーピング検査車両始動  
ドーピング検査や教育啓発活動に活用することができる  
ドーピング検査車両が完成

**2011**  
**スポーツ基本法成立**  
「ドーピングの防止の重要性」についての言及、クリーンで公正なスポーツの実現を目指す  
世界陸上2011テグにて1,849血液検体を採取

**2013**  
第4回 World Conference on Doping in Sport  
ヨハネスブルク宣言  
2009Code改定

**2015**  
**CODE施行**

**2013.9.7**  
**TOKYO 2020決定**  
2012 ロンドン 国際DCO派遣  
2014 ソチ 国際DCO派遣  
2016 リオデジャネイロ  
2018 ピョンチャン

## 第1回・2回・3回アンチ・ドーピング国際会議 採択決議文要約

# WADA設立から アンチ・ドーピング規程策定： より発展した規程を通して、 よりクリーンなスポーツを目指す

### ローザンヌ 1999 第1回世界会議 LAUSANNE 1999

- 世界のアンチ・ドーピング活動の起点として、スポーツ・ムーブメントと政府関係機関が参画
- WADA設立を決議
- 世界で統一の規程策定のための活動をスタート

### コペンハーゲン 2003 第2回世界会議 COPENHAGEN 2003

- 世界で一つのスポーツにおける基盤として、「世界アンチ・ドーピング規程」の承認
- 2004年アテネ・オリンピック開会までに、各国による批准を求める
- 規程が、効率的なアンチ・ドーピング活動の基盤となることを認識し、推進する
- スポーツにおけるドーピングが、スポーツの精神に反することであることを認識し、世界の規程の下、アンチ・ドーピング活動をより強化、加速、調和することを確認
- 政府とオリンピック/スポーツ・ムーブメント、そしてWADA、国際政府機関、政府間機関、地域政府機関や非政府間機関がより結束することを求める

### マドリッド 2007 第3回世界会議 MADRID 2007

- 改訂版2007世界アンチ・ドーピング規程の採択
- 世界アンチ・ドーピング規程の継続的な発展と進化が求められ、スポーツにおけるドーピング問題に対処していくには、公正、効率的、実践的でなくてはならないため、きわめて重要な規程であることの認識を再確認
- 世界中に開かれた透明性のあるコンサルテーションのプロセスを経て、WADAの理事会が、改訂版の規程を採択したことに、満足の意を表明

## 第4回 国際会議 概要

# スポーツの未来への投資として、 アンチ・ドーピング活動強化へ

ヨハネスブルク 2013 第4回世界会議

## WORLD CONFERENCE ON DOPING IN SPORT, JOHANNESBURG 2013

世界アンチ・ドーピング規程  
2015年の発効に向け、CODEをより明瞭で公正かつ厳格なものに

- 01 制裁の厳格化と柔軟性**  
Sanctions
- 02 比例制の原則及び人権への配慮**  
Human Rights, Proportionality
- 03 インテリジェンス、調査の役割強化**  
Intelligence, Investigations
- 04 アスリート・サポートスタッフの役割と責務**  
Athlete Support Personnel
- 05 リスクに基づくより効果的な検査、分析**  
Testing and Sample Analysis
- 06 IF x NADOの間のバランスと協調**  
Balancing Interests of IFs and NADOs
- 07 より明確で、かつ簡潔な規程**  
Clearer, Shorter Code

## アンチ・ドーピング国際会議の変遷と展望

# スポーツと政府関係機関との より強いコミットメント

— クリーンなアスリートを護り、  
スポーツの公正さを保つため

WADAが主催するアンチ・ドーピング世界会議 (World Conference on Doping in Sport) は、1999年ローザンヌ、2003年コペンハーゲン、2007年マドリッドに続き、2013年11月ヨハネスブルクで第4回目の大会となった。

第4回会議では、2003年に全世界・全スポーツで初めて統一され、批准された世界アンチ・ドーピング規程 (World Anti-Doping Code) の2回目の改訂が承認され、2015年施行に向けての大会の位置づけであった。

1999年2月4日、ローザンヌで開催された第1回世界会議では、「ローザンヌ宣言」が発表され、スポーツと政府の「ハイブリッド」で独立した国際非政府組織としてWADAの設立が合意された。

2003年コペンハーゲンでの第2回大会ではCodeが採択され、さらに2007年マドリッドでは約1,600人が参加してCodeの初改訂がなされた。

ヨハネスブルクでは、Codeとそれに付随する国際基準の改訂が採択され、新たなイシューに対応するため「インテリジェンス」や「調査」といった新概念も導入された。また、本会議では、今後のアンチ・ドーピング・プログラム展開の質的な向上、効率性と効果と活動の拡張が求められると同時に、関係者間でのより密な協調・連携の推進が求められた。

# 真のスポーツ 真の強さを求めて

アンチ・ドーピングを通して未来を見据える

Play True Sport



真のスポーツ 真の強さを求めて  
アンチ・ドーピングを通して未来を見据える Play True Sport

## アンチ・ドーピング世界地図

### 透明性と中立性を確保する グローバルなアンチ・ドーピング活動



## アンチ・ドーピング活動の発展

2020年を目指して PLAY TRUE - for our future sport

# すべてはクリーンなアスリートのため より緊密な協力体制へ

グローバルなアンチ・ドーピング活動の発展と展開については、すべての関係者による緊密な協力が必要となる。これら関係者には、国内、地域、そして国際的なレベルでの政府関係機関、およびアンチ・ドーピング機関が含まれる。

私たちは皆、政府関係機関との協調関係を強化すべきである。それは、各々の責任分配において、それぞれがやるべきことを正確に把握し実行することを意味する。

It's all about the athletes.

In the worldwide fight against doping, we need even closer cooperation with all the stakeholders. These include the government authorities and anti-doping organisations at national, regional and international level.

All of us, especially WADA, should increase the cooperation with government agencies, which means establishing precisely what each partner can and should be doing in an agreed division of responsibilities.

トーマス・バッハ IOC会長  
Thomas Bach, IOC President



# 進化と革新、 さらなる協調を

私たちはこれからも進化し、革新的であり続け、共に協力していかなければならない。アスリート、スポーツ、政府、アンチ・ドーピング機関、国内のオリンピック委員会等、いずれの代表であろうと、現状に満足してはられない。

We must continue to evolve, to be innovative and work together.

There is no room for complacency, whether you represent athletes, sport, government, Anti-Doping Organizations or National Olympic Committees.

ジョン・フェイ WADA会長  
The Hon. John Fahey, AC, WADA President

# TOKYO 2020開催を控えた 日本のアンチ・ドーピングへのコミットメント

JADAは以下の点を特に重視していきたい。

- ▶ **01** 私たちは、世界アンチ・ドーピング規程が「私たちの規程/Our Code」だと自覚している。
- ▶ **02** ドーピングを「社会的課題」として立ち向かっていくにあたり、新しい規程においてこれまでよりも若い世代からの教育と予防に関する活動により焦点が当てられていることを歓迎する。「スポーツの価値・精神」に基づいた教育の重要性を共有し、若者たちがスポーツの力を感じ、体現することができるよう協同した活動を展開していく。
- ▶ **03** 連携と協力はアンチ・ドーピング・ムーブメントの中心にあるべきだ。NADO/RADO、スポーツ・ムーブメントや公的機関との連携と協力を真の意味で強化していくことが、重要な第一歩である。

将来の世代が、アンチ・ドーピングの観点からスポーツの価値に対して接点を持てるようにしたい。2020年に至るまでの間、今以上に世界中の若者がスポーツに対する情熱を育み、そして何よりも、スポーツを通じて生き方を見出し、創造できるよう尽力していく。

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 / Japan Anti-Doping Agency  
(ヨハネスブルク世界会議での発言より抜粋)

# スポーツの価値を高め、 スポーツを通じた未来への展望

- スポーツには、世界を変える力がある。
- スポーツには、人々を奮い立たせる力がある。
- スポーツには、他では到底なし得ない、人々を結びつける力がある。
- スポーツには、ユース世代に訴える言葉がある。
- スポーツには、それまで絶望でしかなかったところに、希望をもたらす力がある。
- スポーツには、人種的な壁を壊す、政府よりも強い力を兼ね備えているものである。

ネルソン・マンデラ

“Sport has the power to change the world... it has the power to inspire. It has the power to unite people in a way that little else does. It speaks to youth in a language they understand. Sport can create hope where once there was only despair. It is more powerful than government in breaking down racial barriers.” – Nelson Mandela